

糸魚川淳二先生を偲んで

2021年11月11日、名古屋大学名誉教授糸魚川淳二先生がご病気のため、92歳でご逝去されました。糸魚川先生は、京都大学理学部をご卒業され名古屋大学理学部教授を務められました。また、新生代軟体動物化石研究の第一人者で、日本列島形成史・日本海の拡大・古動物地理など幅広く研究を展開されました。さらに、瑞浪市化石博物館の設立にご尽力され、豊橋市自然史博物館館長なども歴任されました。

福井県立恐竜博物館の前身である福井県立博物館が開館（1984年）して6年目を迎え、10年目を目指して「県立博物館展示改善専門委員会」が平成元年から開催され、専門委員として糸魚川先生にご就任いただき、自然史系の展示に関してご意見をいただきました。当時福井県立博物館の自然系展示は、歴史展示の導入部で狭い展示面積でしたが、5回の委員会を経て恐竜発掘の実績も踏まえ、自然系展示の増築計画案が策定されました。糸魚川先生のご意見の賜物と私は思っています。この増築計画案を当時の栗田幸雄福井県知事にご報告すると、栗田知事は全く違う構想を持っておられました。それが「県立恐竜博物館」構想でした。この構想は実現に向かって進行しました。1995年9月に「県立恐竜博物館（仮称）基本構想・計画策定委員会」が発足し、翌年にかけて5回の委員会が開催されました。この委員にも糸魚川先生にご就任いただき、機能・活動・運営計画・展示など先生の経験などをもとに熱心にご検討賜りました。そのお陰で、2000年7月に建築面積約15,000平方メートルの恐竜博物館が開館できたのです。

開館後も紀要編集委員をお引き受けいただき、投稿論文の査読などのご指導を賜りました。編集委員としては、紀要1号（2002年3月発行）から16号（2017年12月発行）までの長きに渡ってお世話になりました。さらに、県立博物館時代から恐竜博物館設置後も5回に渡り資料評価委員をお願いして参りました。特に2015年度には、資料評価委員長として林原自然科学博物館が所蔵していた標本の評価を務めていただき、当館の資料充実にご助力くださいました。このように、当県の博物館における自然史系の展示や運営などについて、糸魚川先生のご指導によって、今日の恐竜博物館の礎の一つが築かれたと確信しております。

糸魚川先生のご霊前に、心からの哀悼の意を捧げます。先生、安らかにお眠りください。

福井県立大学名誉教授・福井県立恐竜博物館名誉顧問

東 洋 一